

EOB-MRIの肝細胞癌術前肝予備能検査としての有用性

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	EOB-MRIの肝細胞癌術前肝予備能検査としての有用性
倫理審査 受付番号	第2785号
研究期間	2018年 2月倫理審査承認日～2022年10月31日
研究対象情報の 取得期間	下記の期間に当院 肝・胆・膵外科を受診され、肝細胞癌でGSAシンチとEOB-MRIを受けた方 2008年 1月 1日～2016年12月31日
研究に用いる 試料・情報	カルテ情報
研究概要	(研究目的、意義) 術前肝予備能評価として腹水の有無、T-bil、ICGテストを組み合わせた幕内基準がよく用いられていますが分肝機能の評価ができず、またICG排泄異常などの欠点も存あります。99mTc-GSA シンチグラフィ (GSAシンチ) は分肝機能評価が可能でICGテストの評価困難な患者さんにも有用とされますが、将来薬剤が入手困難になるとされます。当科における肝細胞癌患

者さんの術前肝予備能検査として、EOB-MRIが有用かどうかを検討します。今後EOB-MRIが肝予備能検査として有用かどうか証明されれば、GSA施行困難な時にEOB-MRIが代用され有意義と考えます。

(研究の方法)

2008年1月から2016年12月までに当科で肝細胞癌肝切除症例は446例でした。術前の^{99m}Tc-GSA シンチグラフィと術前のEOB-MRI、ICGR15、血清アルブミン、AST、ALT、T-bil、PT%、血小板との相関性について検討します。また、肝予備能としてのEOB-MRIと術後合併症、無再発生存率、累積生存率との関係を検討します。

(個人情報の取扱い)

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

**本研究に関する
連絡先**

兵庫医科大学病院 肝・胆・膵外科
藤元 治朗（研究責任者）
中村 育夫（研究担当者）

TEL |（平日 9：00～17：00） 0798-45-6582
（上記時間以外） 0798-45-6583